

令和7年度第3回秋田県読書活動推進協議会 議事要旨

日 時：令和7年11月7日（金） 14：30～16：00

会 場：県庁本庁舎 73会議室

出席者：委 員 中尾信一（議長）、加賀谷龍二、高橋秀明、木村加奈子

事務局 県文化振興課 永須課長、高橋推進監、藤澤チームリーダー、佐々木主査

県次世代・女性活躍支援課 船木主事

県長寿社会課 安田副主幹

県障害福祉課 三浦主事

県教育庁総務課 北條副主幹（兼）企画監

県教育庁特別支援教育課 工藤指導主事

県教育庁生涯学習課 田口チームリーダー、青谷主査

県立図書館 芳賀副主幹（兼）チームリーダー

議 事：第4次秋田県読書活動推進基本計画素案について

【議事内容】

（文化振興課）

第4次秋田県読書活動推進基本計画素案について、資料1により説明。

（中尾委員）

ただいまの説明について確認したい事項はあるか。

細かい言い回しになるが、17ページの特別支援学校における取組のうち指標に「定期的な読書の時間を設定している学部の割合」とあるが、学部という言い回しは一般的なのか。

（特別支援教育課）

特別支援学校では、小学部、中学部、高等部という学部がある。

（木村委員）

16、17ページの学校における取組のなかで、アの小・中学校は子どもたち、イの高等学校は生徒、ウの特別支援学校は幼児児童生徒と記載されているが、特別支援学校に幼児はないのではないか。

（特別支援教育課）

視覚支援学校と聴覚支援学校に幼稚部がある。

(木村委員)

であるならば、小・中学校も児童・生徒と統一した方がいいのではないか。

先日の文化振興課主催の「読書の杜トークライブ」の様子を拝見したが、ゲスト選定はだれが行うのか。

(文化振興課)

当課で行っている。

(木村委員)

ゲストに作家を呼ぶと良いのではないかと感じた。作家の中には、全国で読書の楽しさや読書の推進を軸に講演されている方もおり、イベントの趣旨がダイレクトに伝わるのではないか。トークライブと一緒にふるさと秋田文学賞の表彰式も行っているが、文学賞にも興味を持つてもらえると思う。

22ページの県庁出前講座の講師の選定も大事だと思う。自分も読み聞かせを用いたワークショップを行うが、子育て世代の読み聞かせ講座になると育児の話題中心になってしまったり、情報のアップデートができていない講師が見受けられる。子育て世代は時間を作つて参加しているので、講義内容を重要視しなければ、1回の参加で終わってしまう人がいる。

また、他のどの政策でも言えることだが、秋田県の取組イコール秋田市の取組になっているのではないかと感じている。集客率等の事情から仕方がないこととは言え、人が来るのを待つのではなく、県の方から能動的に県北、県南に出向くようにしてほしい。

読書活動推進連絡協議会等の取組も記載されているが、県だけではなく市町村も交えた情報共有等の場があると良いと思う。

(中尾委員)

説明についての各委員からの意見に対し、県から回答をお願いしたい。

(文化振興課)

児童、生徒の記載については、担当課が本日欠席しているが、検討を依頼する。

トークイベントの人選については、毎年選定に苦心している。読書の裾野を広げるという趣旨のイベントであるので、来年度以降の検討の参考としたい。

(生涯学習課)

県庁出前講座は生涯学習課職員が講師を務めている。内容は文科省と県で作成したリーフレットに基づき、受講者のニーズを事前に聞き取りつつ実施している。今年度から始まった講座であるが、ニーズを把握しつつ、アップデートしながら内容を検討していきたい。講座内のデータについては、東京大学とベネッセで実施している「子どもの生活と学びに関する

る親子調査」の調査結果を用いつつ、子どもの読書離れについての説明をしている。データもアップデートをしながら、実施していく。

(文化振興課)

今年度は2月にも読書イベントを実施予定だが、会場は横手を予定している。地域に赴き、読書の楽しさを感じてもらう取組を実施していく。

(中尾委員)

その他、説明について何か質問や意見はあるか。

無いようなので、協議に入る。協議の進め方は、まず、事前に委員の方から出された意見を伺ってから、素案の内容や指標についての意見を順に伺うこととする。それでは、事前に意見を出された高橋委員からお話し願いたい。

(高橋委員)

本意見については、素案に対する横手図書館内の意見を集約している。

8ページの県立図書館の利用促進に向けた体制の整備の中で、①各世代に対応した読書環境の整備の具体的な取組に、世代別コーナーの設置とあるが、「teens'コーナー」「子育て情報コーナー」「ビジネス支援コーナー」「シニアコーナー」というコーナーの分け方が、平成の初期からの仕分けのままのように感じる。子どもに関しては「teens'」という言葉で片付けられないくらい、S Fや歴史等好きなジャンルがそれぞれあり、「teens'コーナー」という括りで興味を持ってくれているのだろうか。今後、子どもたちが興味を示せられるよう、子どもたちの意見を聞きながら多くの子どもたちに読書を楽しんでもらうようにしていく必要がある。

10ページの秋田県立図書館デジタルアーカイブの活用促進について、県の図書館、公文書館、文学資料館の取組として記載しているが、大仙市、横手市もデジタルアーカイブを進めている。図書館にも寄贈された様々な資料が溢れでおり、単に県だけの取組と/orではなく、市町村や民間団体も含めてデジタルアーカイブを活用していくことが、読書推進に繋がる可能性が高まるのではないか。

11ページのウェブサイトやSNSを活用した情報発信について、県立図書館ウェブサイトのアクセス数を指標として設けているが、現在のウェブサイトへのアクセスは、本の検索がメインになっているのではないか。既に図書館を利用している人のアクセスが多い中、読書推進を進めるためには、図書館を利用していない人を対象にアクセスしてくれるようなウェブサイト作りやアクセス数の増加を目指す必要があるのではないか。単にアクセス数を指標とするのが適当なのか疑問に思った。

県立図書館SNSのフォロワー数の指標についても、今の206人に対し900人まで増やすのはかなり大変だと思う。県立図書館だけに任せるとではなく、全県を含めて県立図書

館のフォロワー数を増やす取組をしていかなければならないのではないか。中にはフォローしないでSNSを見ている人もいるので、フォロワー数に限るのも指標として適当なのか疑問に思った。

19ページに学校図書館への年間貸出冊数の指標や、9ページに県立図書館の年間個人貸出冊数の目標数値が示されているが、人口減少下で中学生・高校生も減っている中、冊数を増やすというのは達成可能な目標なのか。横手図書館ではできるだけ率で効果を測るようにしている。5年後になぜ達成できないのかという議論になってしまわないよう、満足度や利用率という目標値も検討すべきではないか。

25ページの秋田県読書活動推進連絡協議会の充実については、現在、各市町村の取組等の情報共有がメインになっているが、県と市町村が協働で読書推進活動を実施するための協議の場に発展させられないか。県から議題をおろすのではなく、プラットに困っていることを出し合い、一体となって取り組んでいければ、内容が充実すると思う。

26ページのビブリオバトルについては、今は高校生までの参加となっているが、大人も参加できないものか。せっかく高校生までやってきた人たちが、卒業後に発言する場がない。横手図書館では「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催しているが、高校生の参加者がいない。現在中学3年生の参加者がいるので、来年の参加を呼び掛けている。ビブリオバトルを頑張ってきた子が卒業後も県内に残っているならば機会を設けていいのではないか。図書館を使った調べる学習コンクールには大人の参加者が1人いるが、文部科学大臣賞を取った。ビブリオバトルに規制があるならば、ビブリオバトルというタイトルにしなくても、大人になっても発言できる場を設けていいのではないか。

(県立図書館)

各世代に対応した読書環境の整備について、最近ではバリアフリーコーナーの拡充は行ってきたが、令和以降新しいコーナーは設置していない。ご意見を館内で共有させていただきたい。

デジタルアーカイブの活用促進については、県内様々な図書館で取り組んでいるが、国が「ジャパンサーチ」というデジタルアーカイブのプラットフォームを提供しているので、こちらを活用すれば、アーカイブの活用促進が見込めると考えている。1月に研修を予定しており、市町村図書館の職員にも参加いただけるので、その場で一緒に検討していきたい。

ウェブサイトやSNSを活用した情報発信については、SNSの指標目標が高すぎるのでないかというご指摘があったが、現在提供しているSNSがFacebookということもあり、フォロワー数があまり伸びていないという状況である。令和8年3月中にXとInstagramの開設を予定しており、準備を進めている。Xについては文化振興課の「あきたブックネット」、県内外図書館との相互フォローやリポスト等を通じてフォロワー数を伸ばしていく。Instagramは子育て世代を重点ターゲットとして、県内の子育て関係機関のInstagramと相互に連携したいと考えている。現在、広報業務の主担当職員が庁内の情報発信力強化研

修を受け研鑽を積んでいるので、広報に生かしていきたい。

学校図書館の年間貸出冊数の指標については、主な貸出先は高校、特別支援学校であるが、生徒に直接貸し出すということではなく、学校図書館の充実支援や教員への教科支援がメインである。また、小・中学校教員が県立図書館で本を借りる場合も貸出冊数に含まれているので、率として分析するには、分母の算定が難しい状況である。当該指標については従来どおりの貸出冊数にしたい。

(文化振興課)

市町村との読書活動推進連絡協議会については、計画を進めるにあたって市町村の協力を得ながら一緒に取り組んで行きたいという趣旨である。ここでいう情報共有というのは、市町村の先進事業や課題等を共有するということも含まれるので、有効な場となるように内容について検討していきたい。

(生涯学習課)

ビブリオバトルについては定着が進み、近年では県の代表が全国大会に進み上位の賞を獲得するということが続いている、対象を小学生まで広げ実施したところである。先日の地区大会では出場5回目になる高校3年生の生徒が、最後の出場であること残念がっており、今後は観覧者としてビブリオバトルに関わっていきたいと話していた。生涯学習課としては、そういう子どもたちに発表の場を設けてあげたいところだが、課の業務としては子どもの読書活動推進であるので、大人のビブリオバトルを開催するとなれば他の課の対応となる。開催方法等についても検討が必要であり、開催が難しい状況である。

(加賀谷委員)

ビブリオバトルが始まった時、秋田大学でも開催した記憶がある。一般の部についても開催した記憶があるが。

(生涯学習課)

平成29年に一般の部も開催した。

(加賀谷委員)

読書サークル等に参加している方の中には、読書への熱い思いを持った方がいるので、機会を設ければ、人は集まると思う。

(中尾委員)

ビブリオバトルという言葉に拘らず、大人でも読書共有の場があればいいと思う。ここまで素案の内容についてのご意見が続いているが、29ページから31ページの指

標についてもご意見があれば伺いたい。

(加賀谷委員)

学校図書は行政の図書予算で購入していると思うが、幼稚園や保育園の図書はどこの予算で購入しているのか。

(県立図書館)

前に幼保推進課に所属していたので、知っている範囲でお答えする。施設の予算のほか、保護者からの集金で購入している施設があった。行政からは図書購入費ではなく施設全体の運営費として交付され、その中の一部を図書購入に充てることができる。

(加賀谷委員)

幼稚園、保育園で読まれている本が古いように見受けられる。

(文化振興課)

当課では、読んだッチ・リレー文庫事業により、県民から寄付していただいた本を幼稚園や保育園に配付している。配付した施設から大変好評であり、指標である配付先数を伸ばしていく予定なので、今後も継続して取り組んでいきたい。

(中尾委員)

第3次計画から引き継いだ指標もあると思うが、第4次計画で新しい指標や大幅な増加を見込んだ指標はあるか。

(文化振興課)

指標については、主にこれまでの内容を見直し継続的に取り組む予定である。

(中尾委員)

その他指標について何か御意見等はあるか。

(高橋委員)

11ページの県立図書館SNSのフォロワー数について206人から900人に伸ばすというのは、ぜひ全県的に協力して取り組んでいきたい。県立図書館の職員だけで投稿すると、同じ内容になってしまふ。ずっと同じ内容が続くとフォロワーが飽きてしまふフォロワー数が減ってしまうということもあり、横手市の場合は、Instagramは生涯学習課、Xは図書館というように媒体によって担当部署を違う。県のSNSのフォロワー数の目標が900人というのは他都道府県のフォロワー数からすれば少ないほうだと思う。もっと上を目指して

いただきたいが、県立図書館だけに任せることのないようにしてほしい。

(木村委員)

フォロワー数を増やす手法として、県で管理しつつ、一般の方に#投稿してもらうような、見る方も参加できるやり方もある。その投稿をリポストして、投稿が県のSNSに掲載されるようになれば、フォロワー数が増えていく。今の人達はSNS上で参加したがる傾向にあるので、どう巻き込むかが重要である。ただ、単純にフォロワー数が目標でいいのかという疑問は私も持っている。SNS利用者の中には、フォローせずに見る人もいるので、関心を持ってもらっているということを確かめたいならば、インサイト情報(閲覧回数)を分析した方がいいのではないか。どういう投稿が見られているのか分析できる。フォロワー数は相互フォローにより情報共有・情報交換できるのが魅力だが、県のSNSの運営上、一個人との情報交換やそれぞれのコメントに対する反応はできないと思うので、フォロワー数の増加は見込めないのではないか。

(高橋委員)

横手市で実施したイベントのゲストに声優の方が来た時、フォロワー数は2人増えただけだが、閲覧数は2万回であった。これを2で見るのか、2万で見るのか。どれだけ関心を持ってそのサイトを使用しているのか、横手市では分析ができていない。最初にフォロワー数が増えるのは同じ市役所の仲間が登録しているケースが多く、参加型が増えればフォロワー数や閲覧数も増えていくのではないか。市町村等と協力していく仕組みを考え、みんなで情報発信していかなければならない。

(木村委員)

Facebookはインサイト数が見られない。インサイト運用を考えるのであれば、XかInstagramになると思う。Instagramは、どういう投稿がインサイトが多かったか閲覧情報の分析や投稿内容の提案までしてくれる。どのターゲットに見てもらいたいのか、時間帯投稿も大事である。分析を5年かけてやるならばインサイトの方がデータが取りやすいし、戦略も練りやすいと思う。

(中尾委員)

指標も含め、具体的な取組についても多岐にわたっているが、何か御意見はあるか。

(木村委員)

第1回目の協議会で高橋委員が、そもそも「読書とは何か」と話したことがずっと残っている。そもそも読書とは何かを学べる、語り合える場があってもいいのではないか。県として取り組むならば、スマートカレッジが良いのではないか。スマートカレッジでは探求を深

めるようなテーマ設定が多く見受けられるが、そもそも読書とはどういうことかという広いテーマを取り扱ってもいいのではないか。県北で発行されている新聞にもスマートカレッジの広報が掲載されているので、これを利用しない手はない。本を読まない人にどれだけアクセスできるのかが大事で、本好きありきのイベントが多いが、本好きになってもらうための催し・講座ができたら良い。前回の協議会で出た、図書館では静かに過ごさなければならぬという意識もそういうことから変えていけるのではないか。また、スマートカレッジ講師の一覧から仕事の依頼が来ることもあり、講師人材の生み出しもできる。秋田は無料の公民館講座が充実している分、お金を払って講習を受けるという習慣があまり無い。有料になった途端受講者が減り、講師の持ち出しが増えてしまう。講師への謝金もとても格安である。お金を払って学ぶという価値観があまり浸透していないが、だからこそ、無料講座を充実させ、講師を生み出し、お金を払って学ぶ文化が広がっていけば良いと思う。

協議会を通じて市町村の情報収集をしているということだが、先日リニューアルオープンした鹿角市の十和田図書館に研修で行った際に、市の人口が少ないながらも、館長自身や図書館イベントの取組が幅広く素晴らしいだったので、そういう活動を紹介できる場があれば良いと思う。

(高橋委員)

28ページの外部機関への貸出冊数の指標について、外部機関とは具体的にどのような施設か。

(県立図書館)

現在は秋田大学附属病院、県立プール、県議会図書室、近隣福祉施設等で5機関ほどである。

(高橋委員)

12年度の目標数値は、貸出機関を増やす上で貸出冊数が増えるという見込みか。貸出機関が増えれば、今まで本を読まなかった人も本を読むことに繋がるのではないか。

(県立図書館)

貸出機関も増やしたいと考えている。

(高橋委員)

県内で何機関増やす予定か。

(県立図書館)

県内というよりは、県立図書館が届けられる近場の数施設ということになる。

(高橋委員)

県内全体でということを考えると、県立図書館以外の図書館でも貸出ができるといいのではないか。横手市も同様の取組の実施を予定しているので、指標にカウントできるのではないか。

(文化振興課)

ここで指標としてカウントするのは、県の取組になる。市町村とは、連携の中でお互いの取組を把握しながら共有していくという方向性になる。

(木村委員)

あくまでも県の中の取組を、県の中で収集していくということか。

(文化振興課)

県の取組の指標になる。市町村と連携しながら協議会を開催していくことから、市町村の取組状況は共有していきたい。

(加賀谷委員)

先程十和田図書館の話題になったが、十和田図書館は出身の作家さんをすごく応援している。読書のきっかけは様々だが、地元の人というのもきっかけになる。知名度はあまり高くないが秋田出身であるとか、秋田を題材にしているとか、秋田で働いていたとか、そういうのを集めて発信すると、読書のきっかけになると思う。

(中尾委員)

14ページの読書イベント等の情報発信について、まちなかBOOKリーダーの取組紹介が記載されていたので、実際記事を読んでみたら非常に面白かった。小規模の集まりから活動が広がっていく取組が紹介されていて、大規模なイベントを実施し人を集めることも当然やるべきだが、少人数からでも本好きの人を紹介する取組もとても大切だと思う。

27ページの読書会やブックカフェ等の交流の場づくりへの支援についても、先日秋田市内で開催された読書イベントに参加したが、町の小さな書店が集まって、お客様と対話しながら本を販売していて、このような地道な取組や読書会をSNSで紹介する支援をぜひ実施していただきたいと思う。

その他意見等あるか。

意見なし

(中尾委員)

事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いしたい。

(事務局)

本日の意見を踏まえ、内容を調整し、素案を12月の県議会において審議する。その後、パブリックコメントを実施し、第4回目の協議会を書面開催として、成案を確認していただく。時期は1月中旬を見込んでいる。その後、成案を2月の県議会において審議し、3月末の公表となる。

(中尾委員)

次第3の「その他」について、本日の協議を通じて何かご意見や質問はあるか。

私からも一言述べさせていただきたい。今回協議会に参加して、読書に関する色々な取組があることを知った。計画期間の5年の間で、それぞれの時代に合わせて素案を内容も変わっていくと感じた。次の5次計画策定の際には、AIについての言及もあるかと思う。時代に合わせながら、取組が続いて行けばいいと思う

以上